

平成26年7月10日
パリ産業情報センター
舛田 崇

一般調査報告書

見本市「Transports Publics」と欧州の先進公共交通モビリティ

パリ産業情報センターは欧州で開催される見本市を訪問しており、これまで、航空宇宙からインテリアデザインまで、広範囲にわたる分野の見本市を報告してきたところです。欧州はそういった意味でも「見本市を中心とするビジネス」で成り立っているのですが、6月10日から12日まで、パリ市内において「Transports Publics」という公共交通に特化した見本市が開催されました。

以前にも報告したとおり、欧州においては地方自治体の首長や幹部に対する見本市も開催されていますが、今回は2年に1度開催される、自治体関係者向けの公共交通に特化した見本市と、欧州における公共交通モビリティについて報告したいと思います。

〈Transports Publics について〉

Transports Publics はフランス・パリで2年に1度開催される、欧州における公共交通に特化した見本市であり、出展者は55カ国からおよそ250社となっています。都市内や都市近郊、地域間における「先進の公共交通モビリティ」の出展がされており、欧州における各地方自治体の交通担当者及び交通業務の受託事業者約1万人が訪れます。

また、この公共交通に特化した見本市では自治体の交通施策担当者向けのセミナーやパネルディスカッションも数多く開催されており、会場では多くの訪問者が講演に参加されていたところです。

〈欧州における「先端の交通モビリティ」〉

欧州の各主要都市における公共交通手段は、電車、トラム、バス（連節バス含む）、レンタル自転車・同自動車、その他（水上バス、ケーブルカー等）に分類されると思いますが、今回の展示物は主に①トラムと②バス、③その他の各交通手段が展示されていました。

欧州、少なくともフランスにおいては、新規の鉄道ネットワークの計画はあまりなく、入れ替えを除いては鉄道車両の新規受注は見込めません。

しかしながら、欧州においては、都市計画及び環境保護の観点から、地域間及び地域内の公共交通を重要視しており、交通モビリティが先進的に発展しているものと思われます。

なお、今回の見本市においては、レンタル自転車や、パリでのオートリブのようなカーシェアリングシステムに関する展示は少なかったのですが、これらは既に欧州において普及していることを理由に、展示が少ないのではと感じました。

また、バス停等の施設や、公共交通システムなど、公共交通に必要な関連施設の展示も多くあり、訪問者についてもフランスだけでなく欧州全体から集まっており、かなりの盛況ぶりだと感じたところです。

①トラム

欧州における殆どの主要都市においてはトラムが重要な移動手段の一つとなっています。従来型のトラムは線路上を運行する電車でしたが、先進的な展示物を見る限り、概ね2つの方向性となっています。

一つ目の方向性としては、線路を敷設しないトラムです。トラムの車輪はタイヤであることから、一定のランニングコストは必要にはなりますが、これまでのトラム運行に必要な線路の敷設を止めることにより、大幅な初期投資の削減につながるものと思われます。タイヤ式のトラムを見て、個人的には桃花台線の新交通システムを思い出させたところです。

もう一つの方向性としては、電線を敷設しないトラムです。これも大幅な初期投資の削減につながるものと思います。写真のトラムはディーゼルエンジンのハイブリッドトラムとなっており、かなりの先進性が伺えますが、電気による走行に比べるとランニングコストは安価ではなく、少し環境的にも後退したイメージを感じました。

②バス

今回の見本市において、最も展示品が多かったのはバスであり、欧州における主要バスメーカーの殆どが自社製品を展示していたところです。大きさについても、展示写真にあるような連節バスから2階建てバス、市内循環バスのような小型バスまで様々な大きさのものが展示されていました。

今回の出展されたバスについては、殆どがハイブリッドとなっており、CO₂やNoxの削減率をアピールしていたところですが、今回は、パリで電気自動車のカーシェアリング事業を展開しているボロレグループが、電気バスを展示していました。

以前に報告したとおり、ボロレグループは充電式のトラムを開発したと発表したところですが、今回の見本市において、初めて電気バスを出展したものであり、来場者の注目を集めていたところです。

今回出展されたバスは、8時間の充電時間で120kmが走行可能であり、丸1日の運行が可能とのです。10席、最大22人乗りの小型サイズとなっており、パリ市は各区内の循環バスとして使用することを決定しています。

今回の出展を見る限り、バスにおいてもハイブリッドや電気による動力転換の動きが活発となっており、今後は連節バスや二階建てバスのような大型車にも波及していくものと考えられます。



ハイブリッドのタイヤ走行トラム



ハイブリッド連結バス



ボロレグループの電気バス

③その他の交通手段

欧州においてはゴンドラも重要な移動手段の一つとなっており、会場では数社の展示がありました。日本においては観光用の移動手段というイメージがあると思いますが、欧州や南米においては通常の移動手段として利用されています。最近ではロンドン市がオリンピックの開催時にテムズ川を横断するための手段として「エミレーツ・エア・ライン」を開通させています。



ゴンドラの展示

ゴンドラの特徴は、目的地に到着するのに空中を通過するため、様々な権利関係の調整が少なくて済みます。また、インフラ整備等の初期投資についても地下鉄やトラムに比べ、はるかに安価で済むこともメリットと言えます。

また、中間駅についても既存の建物を安価に利用することができるのもメリットであり、駅等を中間駅として利用するなどの、他の交通システムとの連携も容易なことが挙げられるとのことです。

なお、移動手段としてのスピードが気になったのですが、都市でのゴンドラのスピードは時速 16km とのことであり、そんなにゆったりとした移動手段ではないという印象を受けたところです。

イタリアのジェノバやミラノ等の都市ではこの交通手段を着目しており、今後欧州ではメジャーな存在となる可能性もあるのではないのでしょうか。

<将来のパリ交通網計画>

今回の見本市では、パリ市が出展しており、新交通計画を PR していました。現在パリには地下鉄が 14 路線、トラムが 4 路線運行されていますが、新計画では新たに 4 路線を運行させる予定です。



グランパリとしての新交通計画図

方向性としては 2 つあり、まずはパリ及び周辺都市の内環状及び外環状化です。パリ市としては、近郊のオフィス地区を環状で結びドーナツ化による都市化を図っていると言えます。

もう一つは空港アクセスです。現在パリの主要空港であるオルリー空港とシャルル・ド・ゴール空港は RER（近郊鉄道）で結ばれていますが、これを地下鉄で環状線と結ぶ計画となっています。

しかし、全ての交通網が完成するのは 2030 年となっており、しかも外環状線の計画については反対意見も多くあるために、実際にはかなり先のこととなると思われました。

以上、自治体関係者向けの公共交通に特化した見本市と、欧州における公共交通モビリティについて報告しました。会場は自治体関係者向けということで、いきなり商談が開始するというわけではありませんが、展示物の具体的な仕様について話し合う等の活発な質疑が展開されていたと感じました。

また、欧州における最新の公共交通モビリティの技術力は世界的にもトップクラスのものであることを実感しました。また、ゴンドラの展示等の新しい公共交通モビリティの展開について予感させるものであったと思います。県内企業の皆様におかれましては、このような交通モビリティの分野について、欧州企業との連携ができるのではないかと感じたところです。

実感パリ市は最近新しい市長になり、今後の方向性として「交通モビリティ」と「文化」による都市形成を発表しましたが、今回の見本市はまさにその方向性に即したものと言えます。パリ市では、今後もこのような新しい交通モビリティについての情報が発信されることを期待したいと思います。

パリ産業情報センターとしては、この先端産業であるモビリティ関連産業に着目して、これからもこのマーケットの動向を、迅速かつタイムリーに調査してまいります。

本資料は、参考資料として情報提供を目的に作成したものです。

パリ産業情報センターは資料作成にはできる限り正確に記載するよう努力しておりますが、その正確性を保証するものではありません。

本情報の採否は読者の判断で行ってください。

また、万一不利益を被る事態が生じましても当センター及び愛知県等は責任を負うことができませんのでご了承ください。